総合開会式

わかやま総文に参加して

宇治山田高校２年
山岡　達也

私は今年わかやま総文の総合開会式に三重県代表生徒として参加させていただきました。今年の会場は和歌山市の大きなアリーナ型のホールであるビッグホエールでした。例年の開会式では各県代表の生徒が舞台の上でそれぞれのスローガンを言うという形式なのだそうですが、今年はコロナ禍の影響でその形が実施できず、司会の方に代読していただくことになりました。丁寧なリハーサルを何度かしたおかげで予想していたほどの緊張はせず、しっかりと三重県代表生徒として歩いてこれたと思います。

出番が終わると舞台袖から客席に移り、全国の方々の舞台発表を観ました。舞台発表で印象に残っているのは、発表だけでなく演出も迫力があることで、臨場感あふれ感動的な舞台でした。トップレベルの発表を観ることができて貴重な経験となりました。

その後、写真部門の会場のある橋本市に移動し、全国屈指の作品をじっくりと鑑賞する機会を得ました。中でも、影を上手く使った作品が印象的で、自分もこれから撮影する際に参考にしようと思いました。全国の写真部員の力作を観ることで大きな刺激をもらうことができました。

コロナ禍という困難な時期でしたが、このような得がたい貴重な経験ができる機会をいただき本当にありがとうございました。

演　劇

初の全国大会を終えて

三重高校３年
西村　晴菜

私たち三重高校演劇部は、今年中部ブロック代表として、和歌山で行われた全国高等学校総合文化祭（全国高等学校演劇大会）に初めて出場しました。自校を含め全国から12校が参加、それぞれの趣向を凝らした劇を上演しました。他校の劇もたくさん見させていただき、どの高校の劇もとても面白く、夢中になって観劇することができました。

その中で、私たちの「ねこの子ね」は、上位４校に入ることは叶わず、優良賞となりました。上演が終わった後、他の学校の顧問の先生や生徒の方々の、何人かの方に声をかけていただき、「ねこの子ね、よかったよ」「面白かった」と声をかけて頂きました。演劇コンクールの結果はどうしても審査に左右されるところがありますが、見ていただいた観客の中に何かを残すことができ、温かく話しかけてくれる人が何人もいたこと、それがとても嬉しかったです。また、私は舞台上で行われる意見交換会に出席する機会があったのですが、そこでは演出や舞台装置などについて様々な話を聞くことができ、改めて高校演劇部の全国レベルの方々の劇に対するこだわりを知ることができ、他校と交流が出来、とてもいい経験になりました。

今回、コロナ禍で上演ができるかどうか心配でした

が、無事開催されて本当に良かったです。３年生の引退前最後の上演を、ちゃんとした形で終えられたことは、かけがえない思い出になると思います。応援して下さった皆様、大会の運営に携わって頂いた皆様、そして、地区大会から「ねこの子ね」を一緒に作って来てくれた部員のみんな、本当にありがとうございました。

成長

上野高校３年
山森　歩美

全国高等学校総合文化祭の演劇部門に生徒講評委員の中部日本代表として参加させていただきました。全国から私を含めた11名の生徒講評委員と、12校の出場校が参加しました。

12校のお芝居からは、SNSによる誹謗中傷やマイノリティといった現代社会の問題や、人間関係などの人生における答えの無い問について考えさせられました。また、心が温まり、このようなご時世でも明るく希望を持てるようなお芝居にも出会えました。講評委員の活動からは、自己開示の大切さや、後世に受け継いでいくことの重要さなどを学びました。劇からも講評委員の活動からも学ぶことがとても多く、大変ながらも充実し、大きく成長することができた５日間でした。

私は、小さい頃から自分の意見を言うのが苦手で、自己開示をするのが得意ではありませんでした。しかし、他のブロックの講評委員や担当顧問の方々が作っていた空間はとても温かいもので、一人ひとりの意見を聴いて受け止めてくれる空間でした。観劇後に討論を重ねる毎に、不安や緊張が消え安心して発言できるようになりました。

多くの偶然の積み重ねが今回の貴重な体験となり、十八年間生きてきた中で間違いなく一番濃くて素敵な時間を過ごしました。今後、どんな道に進むことになっても勇気づけられるものにたくさん出会うことができました。ありがとうございました。

吹奏楽

さらなる飛躍を目指して

上野高校２年
加納　優希菜

全国の精鋭たちが集まるこの大会で演奏できること。それは私たちの演奏を県外の方にも聴いてもらえる貴重な機会であり、技術面はもちろんメンタル面においても全国レベルという大きな壁にプレッシャーを感じていた直前の練習。今回演奏しました「multa personality」は練習が停滞する時もあったものの一生懸命練習に取り組み、技術向上だけでなく、表現方法や演奏に対して考え、部員の意見交換を通し真剣に向き合いました。また「Shake a Tail Feather」では演出中心に意見を出し合い、各パートごとの演出を始め、明るく楽しい雰囲気を大切に元気のよさを伝えられるように工夫を重ねました。

紀の国わかやま総文2021　【吹奏楽部門】

本番の演奏は三重県代表としてのプレッシャーや緊張もあり課題もありましたが、それ以上に毎日真剣に練習してきたことが大きな成長に繋がったと感じています。久しぶりにお客様からいただいた大きな拍手が喜びや感謝と共に自信へと繋がりました。

全国から集まった各校の素晴らしい演奏は、技術力の高さはもちろん、素敵なパフォーマンス、生徒の主体的な活動、様々な表情を見せてくれました。同じ舞

演　劇

2021年度はとにかく有観客で大会が開催できた、それにつきる年でした。2019年度終わりの春季大会から2020年度にかけては大会の中止、観客は部員と顧問のみ、さらに部員も全員が観劇できるわけではなく人数制限を課す・・・というような、例年にない措置を講じてきました。お芝居はたくさんのお客さんに観ていただいて、舞台と客席が一体となって創りあげるものだと思いますので、観たいのに観られないお客さんが出てしまう、という選択をせねばならないのは運営側の人間としても苦渋の決断でした。

本年度夏の大会では、地区大会・県大会とも、演劇部員・教職員・保護者・お知り合いの皆様などにご覧いただくことができました。特に、希望する演劇部員のみなさんに漏れなく観劇の機会を提供できたことが、演劇という文化活動の継続には大切なことであると考えています。ただ当然、感染対策に気を遣っての運営となります。客席への１席飛ばしでの着席、入場者とその連絡先の把握、各校のオペレーターが操作する照明や音響の機器の消毒、幕間の時間の換気・・・。さまざまなガイドラインとにらみ合っての運営でした。しかしコロナ禍２年目ともなりますと、運営側にも一定のノウハウが蓄積されてきて、だいぶスムーズな運営ができるようになってきたように思います。そんな中運営された県大会では三重高校、四日市農芸高校が最優秀賞を受賞し、中部大会へ。高田高校が優秀賞を受賞し、近畿総文での上演の機会を得ることになりました。また、同時期に行われた全国大会に三重高校が出場し、優良賞を受賞しています。そして、講評委員として上野高校の生徒１名が全国大会に参加をし、12校の演劇を観て仲間と議論をしたことも、かけがえのない経験でした。

このように、夏の大会は有観客での開催をすることができ、それは、11月に行われたみえ高文祭にも引き継がれました。この間には休校や部活停止の措置が行われ、稽古のあり方やその期間の短さには随分苦労しましたが、夏の大会と同様の演目を深化させた学校、新たな演目に取り組んだ学校、多種多様な上演が見られました。また、他県の大会ではありますが、昨年度はオンラインのみの開催だった近畿総文も、滋賀県のびわ湖ホールで無事開催され、たくさんのお客さんにご覧いただくことができました。

しかし、12月に愛知県の名古屋市公会堂で行われた中部大会は、無観客で行われました。反応のない客席を前に芝居をすることは生徒たちにとってもたいへん困難で、演劇には観客が不可欠であることを再認識しました。実は今年度も、年度当初実施予定の「舞台創造講習会」が持てませんでした。恒例になっていた「能登演劇堂ワークショップ」も開かれませんでした。有観客での大会の実施ができた一方で、実施ができなかったイベントもあります。部員が知る機会、交流する機会は明確に減少しています。こうやって文化は失われていくのかもしれない、だからその機会を提供することが、私たちの責務なのだ、と考えています。

常任理事　西尾　優（高田高校）

事業報告

・第66回三重県高等学校演劇大会　北勢地区大会
［７月29日～31日／四日市市文化会館　第２ホール］
参加13校
地区優秀賞　暁、桑名西、四日市西、四日市農芸
地区優良賞　川越、四日市メリノール学院、
いなべ総合学園

・第66回三重県高等学校演劇大会　中南勢地区大会
［７月30日～８月１日／津市白山総合文化センターしらさぎホール］　参加13校
地区優秀賞　神戸、高田、伊賀白鳳、津商業
地区優良賞　上野、皇學館

・第67回全国高等学校演劇大会(和歌山大会)
［８月４日～６日／紀南文化会館］　参加12校

優良賞　三重
講評委員として上野高校の生徒１名が参加した。

・第66回三重県高等学校演劇大会
［８月11日・12日／三重県総合文化センター 中ホール］　参加９校
最優秀賞　三重、四日市農芸
優秀賞　　高田、桑名西
優良賞　　暁、津商業、伊賀白鳳、神戸、四日市西

・第42回みえ高文祭 演劇部門
［11月６日・７日／三重県総合文化センター 小ホール］　参加５校
出場　上野、桑名西、皇學館、川越、いなべ総合学園

・第41回近畿高等学校総合文化祭 演劇部門（滋賀大会）
［11月19日～21日／びわ湖ホール　中ホール］　参加13校
奨励賞　高田

・第74回中部日本高等学校演劇大会(愛知大会)
［12月24日～28日／名古屋市公会堂　大ホール］
参加17校
奨励賞　四日市農芸、三重

・第40回北勢地区高等学校演劇春季大会　13校参加予定
［３月26日・27日／四日市地域総合会館　あさけプラザ］

・第38回中南勢地区高等学校演劇春季大会　13校参加予定
［３月26日・27日／津市白山総合文化センター しらさぎホール］

・高校生のための演劇教室
５月～12月まで、三重県総合文化センターにて、５作品の観劇の機会が設けられた。

合　唱

今年も昨年に引き続き活動の制約が多い一年となりました。新型コロナウイルスの感染禍が収束しきらない中、また新たな変異株との戦いも始まりました。日々の活動にも細心の注意を図り、行事が始まる前も行事終了後もしばらくの間は生徒の健康状態に気を使う日々でした。そのような中でも、合唱祭を始めコンクールが開催することができたことは昨年と大きな違いであり、部員もそれを支える顧問や保護者のみなさんにも大きな励みとなりました。たとえ無観客であっても、たとえマスクを着用して歌うことになっても、舞台で歌えることは大きな喜びでした。

今年度、特筆すべき行事としては第36回三重音楽祭の開催でした。この音楽祭は高校生が中心となりベートーヴェンの交響曲第９番を合唱するという日本中でも例を見ることのない、歴史ある音楽祭です。昨年度は中止となり、今年度も開催に向けて時間を掛け協議しました。コロナ禍の中、部員の減少や10月まで部活動の中止そしてこのベートーヴェンのドイツ語歌唱による難曲を３年生から２年生へ、２年生から１年生へと受け継ぐ練習が途絶えた中での開催には大きな不安がありました。しかし途絶えてしまってはいけないという思いと、それ以上の部員生徒への今この時期でなければ経験や体験ができないこと、感性を育む機会を無くしてはならないという思いから、最善万全の対策をし、開催することができました。新型コロナウイルス感染予防対策のため今回はオーケストラとの協演は叶いませんでしたが、県内12校の参加があり部顧問や音楽教員のサポートを受けながら、ほぼ高校生のみで２台のピアノ伴奏にのせてベートーヴェンの交響曲第９番「合唱」を会場に響かせることができました。高校生等身大の少し幼い“第９”になったのかもしれませんが、音楽祭のサブタイトルの通り“ベートーヴェン希望の響き”となったと思います。

まだまだ先の見えない日々ですが、来年度は少しでも状況が変わることを信じて、もっと生徒が距離を気にせずに寄り添い合って歌える日が来ることを願っています。

常任理事　堀井　真一（津東高校教諭）